

豊かな森づくりと魅力ある林業の構築をめざして

令和2年度版 「富山県森林・林業白書」

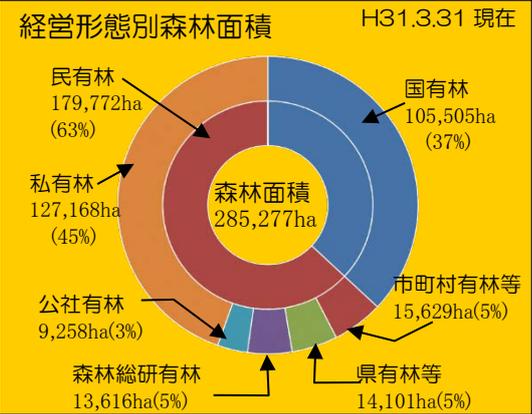


成熟した人工林での主伐(富山市八尾町横平)

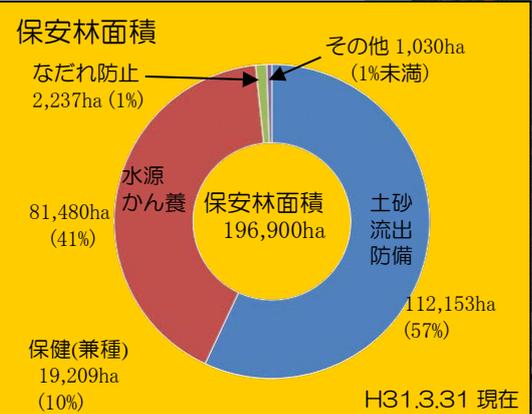


県産材を活用した富山県立大学新学生会館(射水市黒河)

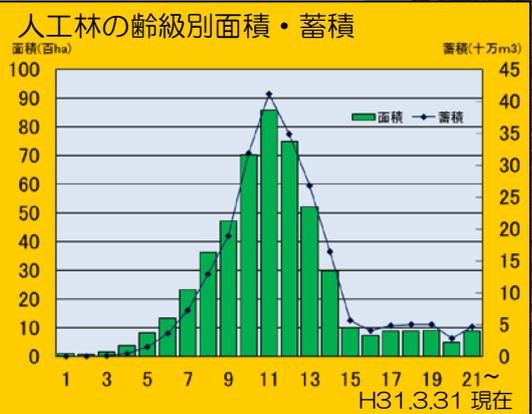
I 富山県の森林・林業の姿



本県の森林面積は約 285 千 ha で、総土地面積 425 千 ha の 67% を占めています。森林率は全国とほぼ同じ率となっています。

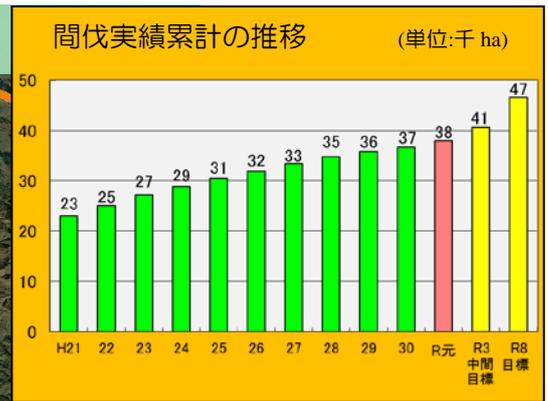


森林の公益的機能の維持・増進が重要な森林をその目的に応じ保安林に指定しています。保安林率は 69.0% で、全国の都道府県で最も高くなっています。

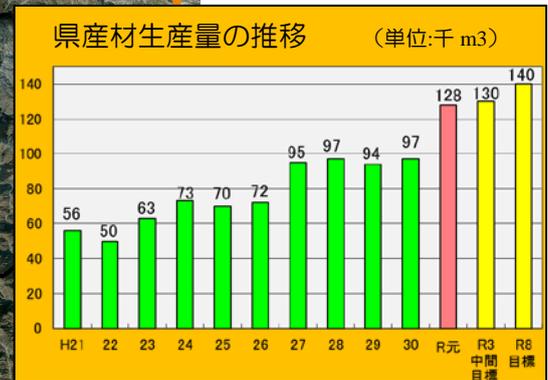


県内の人工林は、木材として利用可能な 9 齢級以上の森林が、面積全体の約 8 割、蓄積全体の約 9 割を占めています。

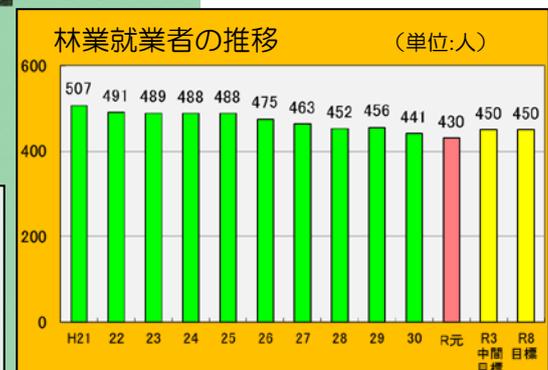




二酸化炭素の吸収源対策としても重要な役割を持つ間伐を毎年約 1,200ha 実施しています。R元年度には目標値の82%となっており、引き続き整備を進めていく必要があります。



県内の人工林資源が充実してきたことや、林内路網の整備や高性能林業機械の導入等を積極的に進めてきたことから、近年、増加傾向にあります。R元年は 12 万 8 千 m³(対前年比 132%)となり、目標値に大きく近づきました。



林業就業者は減少傾向にありますが、平均年齢(森林組合)は60歳(H5)から50歳(R元)と若返っています。また、意欲ある若者の定着につなげるため、通年雇用化を図り、安定した雇用環境を創出し、定着率を高める取り組みを行っています。

目次

- I 富山県の森林・林業の姿..... 1
- II 富山県森林・林業振興計画の概要..... 3
- III 目標の実現に向け、令和元年度に講じた主な取り組み..... 5
 - 森を活かす
 - 木を使う
 - 森を守る
- IV 富山県森林・林業振興計画の参考指標と令和元年度実績..... 18
- V 令和元年度の森林・林業に関する主な出来事..... 19

II 富山県森林・林業振興計画の概要

本県の森林・林業の現状と課題(第1章)

- 森林資源の循環利用の推進
本格的な利用期を迎えた人工林のフル活用
- 林業担い手の確保・定着
人手不足が進む中、林業担い手の確保と定着率の改善
- 県産材の利用促進
安定供給体制の整備と需要の拡大
- 県民参加の森づくりの一層の推進
全国植樹祭を契機とした県民参加の森づくりの機運の継承
- 集中豪雨などによる山地災害への対応
災害に強い森づくりや流木対策などの推進

【本計画の位置付け】

本計画は県の総合計画である「元気とやま

森林・林業・木材産業の目指す方向(第2章)

森づくりの基本指針 **森づくりプランに基
を活用した、100年**

目標 **豊かな森づくりと魅力ある**

目指す方向 **【森づくり】
水と緑に恵まれた県土を支
害に強い森づくりが進んで**

森づくりプランに基づき、里山
多様な森づくりや森づくりを支え
されるとともに、森林整備や治山
により、災害に強い森林が造成。

新・総合計画の政策

【活力14】

森林整備と林業の振興、 県産材の活用促進

- ・森林資源の循環利用と生産
基盤の整備
- ・県産材の安定供給体制の整
備と木材の需要拡大
- ・林業事業者の経営基盤の強
化と担い手の育成・確保

【未来28】

水と緑の森づくり・花と緑 の地域づくり

- ・水と緑に恵まれた県土を支
える多様な森づくりの推進
- ・とやまの森を支える人づく
りの推進
- ・県民緑化運動の推進と花と
緑のあふれる地域づくり

【安心21】

防災・減災・災害に強い県 土づくり

- ・治山・治水・土砂災害対策の
推進
- ・津波・高波・海岸侵食対策の
推進
- ・公共施設の計画的・効率的な
維持管理の推進

施策の体系

森を活かす(伐って・植えて・育てる)

1 森林整備と森林資源の循環利用の推進

- (1) 事業地の大規模集約化の推進
- (2) 「生産林」の健全な育成と主伐、再造林の推進
- (3) 優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の生産体制の整備
- (4) 森林経営の確立に向けた生産基盤の整備
- (5) 新たな森林管理システムの推進

2 林業担い手の確保・育成

- (1) 林業担い手センター等による担い手の確保
- (2) 富山県林業カレッジ等による担い手の育成

3 林業経営基盤の強化

- (1) 林業事業者の育成と経営基盤の強化
- (2) 農林水産公社営林の経営改善と適正な管理
- (3) 県営林の適正な管理
- (4) 特用林産物の振興

4 新たな技術開発と普及指導の推進

- (1) 林業の低コスト・省力化のための新たな技術開発の推進
- (2) 持続可能な林業経営に向けた林業普及指導の推進

木を使う(県産材等の木材の利用促進)

5 安定供給体制の整備

- (1) 林業生産性の向上
- (2) 品質・性能の確保と流通の円滑化

6 需要の拡大

- (1) 住宅や公共建築物等での利用促進
- (2) 新たな需要を創出するための研究開発
- (3) 設計者等の育成・確保
- (4) 理解の増進と木育の推進

森を守る(多様な森づくり・災害に強い森づくり)

7 県民参加の森づくりの推進

- (1) 里山林や混交林等の整備の推進
- (2) 森づくりを支える県民意識の醸成
- (3) 森林ボランティア等による森づくり活動への支援

8 災害に強い森づくりの推進

- (1) 保安林の適正な管理と林地の保全
- (2) 県民の生命・財産を守る治山事業の推進
- (3) 森林病虫獣害対策の推進

人を育てる

創造計画」の森林・林業・木材産業分野に関する計画として、県の森林・林業行政の基本指針になります。

章) **目標年次: 令和8年度**

づき、「里山林」「保全林」「生産林」「混交林」に区分し、新たな森林管理システムなど先につなぐ多様な森づくり
林業の構築

○計画のポイント **「伐って、使って、植えて、育てる」**
 成熟期を迎えている森林資源の循環利用の推進

える多様で災
 いること

林の整備などの
 る人づくりが実施
 施設の設置など

【林業・木材産業】

地域林業の担い手により、持続可能な森林経営が行われているとともに、県産材が安定的に供給され、需要拡大が図られていること

森林資源の循環利用と林業・木材産業の成長産業化に向け、新たな森林管理システムやICT等を活用したスマート林業の導入などにより**主伐面積が3倍に増加**するとともに、需給情報の共有化や需要拡大により**県産材の利用量が4割増加**。

冬期林業の普及などにより伐採作業従事者の**通年雇用が促進**され、その所得が4割増加*。*森林組合の伐採作業の従事者を対象に県で試算

目標の実現に向けた推進施策(第3章)

主な取り組み内容

- ・航空レーザー計測により詳細な**森林資源情報を整備**し、森林境界の画定や施業集約化に活用するほかデータ共有による需給のマッチングなど、**スマート林業**を推進
- ・森林資源の循環利用に向け、人工林の計画的な主伐と、伐採後の優良無花粉スギ「**立山 森の輝き**」による**再造林**を推進
- ・水源の涵養や地球温暖化の防止などを図るため、間伐等の森林整備を推進
- ・県産材を低コストで安定供給するため、路網整備や高性能林業機械の導入を支援
- ・**新たな森林管理システムの円滑な実施**に向け、「**森林経営管理総合支援センター**」を設置し、市町村による、森林経営管理を支援
- ・**高校生等を対象とした林業体験**の開催や、林業就業に関する情報発信サイト「**とやまの林業就業ナビ**」を開設し、県内外からの新規就業者を確保
- ・**冬期林業の普及**により事業体間での**労働力の融通を通じた通年雇用**を促進
- ・効率的な素材生産技術の習得など経験や役割に応じた人材を育成
- ・**新たな森林管理システムの担い手となる意欲と能力のある林業経営者を育成**
- ・**県営林の適正な管理により計画的かつ効率的な県産材の供給を推進**

主な参考指標(H28 ⇒ R8)

- 新** 主伐面積[人工林](年間)
32ha ⇒ 100ha
- ◎無花粉スギ植栽面積(累計)
42ha ⇒ 500ha
- ◎間伐実施面積(累計)
34,784ha ⇒ 46,607ha
- 新** 森林境界画定面積(累計)
4,929ha ⇒ 12,000ha
- 新** 路網整備延長[人工林](累計)
1,818km ⇒ 2,498km
- ◎林業就業者(年間)
452人 ⇒ 450人
- 新** 林業就業者*のうち、通年雇用者の割合(年間)
*森林組合の伐採作業の従事者
64% ⇒ 100%

- ・「**とやま県産材需給情報センター**」により、川上の供給情報と川下の需要情報の共有化を図るなど**需給マッチングの円滑化**を推進
- ・品質・性能の確かな県産材製品の供給を促進

- ◎県産材素材生産量(年間)
97千m³ ⇒ 140千m³
- ◎公共建築物等の木造率(年間)
14% ⇒ 25%以上
- 新** 公共建築物等での県産材利用実績(累計)
243棟 ⇒ 830棟

- ・地域住民との協働により地域や生活に密着した明るい里山林の整備を推進
- ・過密人工林や侵入竹林の整備により針葉樹と広葉樹が混在する混交林に誘導
- ・「**とやまの森づくりサポートセンター**」によりボランティア団体等の森づくり活動を支援

- ◎里山林の整備面積(累計)
2,628ha ⇒ 4,600ha
- ◎県民参加による森づくりの年間参加延べ人数
12,439人 ⇒ 13,000人以上
- 新** 流木被害防止対策着手数(累計)
一箇所 ⇒ 20箇所
(R3年度)

- ・**流木被害の未然防止**に向け、適切な森林整備と流木捕捉機能を備えた治山ダムの整備や溪流内での流木危険木を除去
- ・海岸林を中心とした、松くい虫被害などを適切に把握し効果的な防除を実施

(森づくりや林業・木材産業を支える人づくり)

III 目標の実現に向け、令和元年度に講じた主な取り組み

森を活かす（伐って・植えて・育てる）

本格的な利用期を迎えている人工林での森林資源の循環利用（伐って、植えて、育てる）を推進するため、林業生産性の向上や担い手の確保、林業事業者の経営基盤の強化、新たな技術開発などに取り組みました。

1 森林整備と森林資源の循環利用の推進

(1) 事業地の大規模集約化の推進

●森林境界の固定の推進

森林の整備や施業集約化に不可欠な森林境界の固定のための調査・測量に対し支援しました。

【実績】

- ・森林境界固定実施面積 272ha

●ICT等を活用したスマート林業の推進

航空レーザ計測や計測結果の解析を行い、詳細な森林資源情報や微地形表現図を整備しました。

【実績】

- ・航空レーザ計測面積 103,035ha
- ・航空レーザ解析面積 65,684ha



《令和2年度に新たに講じる施策》

- ・航空レーザ計測により整備した詳細な森林資源情報や木材の需要情報などを市町村や林業、木材産業関係者で効率的に共有する「森林クラウド」の導入に向け、基本設計を策定します。

●施業の集約化の推進

森林の持続的・効率的な経営を推進するため、森林を面的にまとめて具体的な経営方針を示す森林経営計画の策定を推進しました。

【実績】

- ・森林経営計画策定面積（累計） 36,763ha

(2) 「生産林」の健全な育成と主伐、再造林の推進

●森林経営計画に基づく計画的な森林整備の推進

計画作成者を対象に、間伐等の森林施業や森林作業道の開設にかかる費用等を支援しました。

【実績】

- ・間伐（造林事業関係）
 - 造林事業 356ha
 - 間伐材生産推進事業 268ha
 - 県単独森林整備事業等 51ha
- ・森林作業道 98.9km



《令和2年度に新たに講じる施策》

- ・地拵えから植栽までの工程を省力化し、コスト縮減を図るため、「伐採と造林の一貫作業システム」を県がモデル的に実施します。

●計画的な主伐と無花粉スギによる再造林の推進

小規模、分散している主伐可能森林をとりまとめ、効率的な出材を促進するとともに、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」による再造林を支援しました。

【実績】

- ・主伐可能森林の集約化 16ha
- ・「立山 森の輝き」の植栽 17ha

(3) 優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の生産体制の整備

●「立山 森の輝き」の増産体制の確立と民間生産者の育成
生育期間が短く低コストで大量生産が可能となる、挿し木による苗木生産に向け、県砺波採穂林の整備を進めるとともに、コンテナ苗生産に取り組む民間生産者を対象に、巡回指導や技術研修会を開催するなど、技術力の向上と新たな生産者の育成に取り組みました。

【実績】

- ・採穂林造成 0.8ha
- ・コンテナ苗生産に取り組む民間生産者 5者
- ・民間生産者への巡回指導 2回、技術研修会 1回

コンテナ苗生産技術研修会
(県魚津採種園)



(4) 森林経営の確立に向けた生産基盤の整備

●林業の生産性向上を図る路網整備の推進

林業生産コストを低減するため、地域林業の骨格となる林道に加え、大型トラックが通行できる簡易な構造の林業専用道を整備するとともに、効率的に集材を行うために、より高密度な森林作業道を整備しました。

【実績】

- ・林道 ()内は未完成延長
 - 山のみち 0.2 (1.0)km
 - 森林基幹道 1.0 (0.6)km
 - 森林管理道 0.4 (-)km
- ・林業専用道 0.3km
- ・林業専用道(規格相当) 2.6km
- ・森林作業道 98.9km [再掲]

木材の運搬に利用される林道
(宮崎蛭谷線 朝日町)



(5) 新たな森林管理システムの推進

●新たな森林管理システムの推進

市町村が管理不十分な人工林を対象に、森林の経営管理を進める「新たな森林管理システム」が円滑に実施されるよう、「森林経営管理総合支援センター」を設置しました。

【実績】

- ・市町村職員対象研修会 4回 88人参加

●意欲と能力のある林業経営者の育成

市町村の委託を受けて経営管理を実施する林業経営者を公表しました。

【実績】

- ・意欲と能力のある林業経営者 10者

森林経営管理総合支援センターの開設

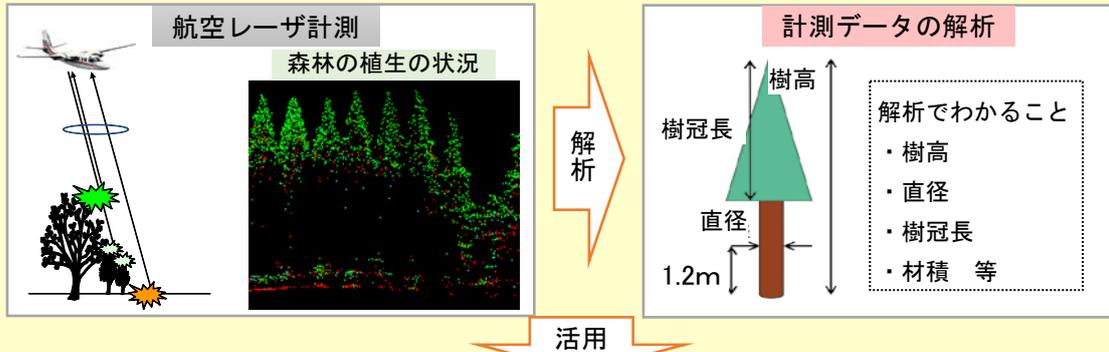


トピックス 航空レーザ計測・解析の成果を活用した森林整備等の推進

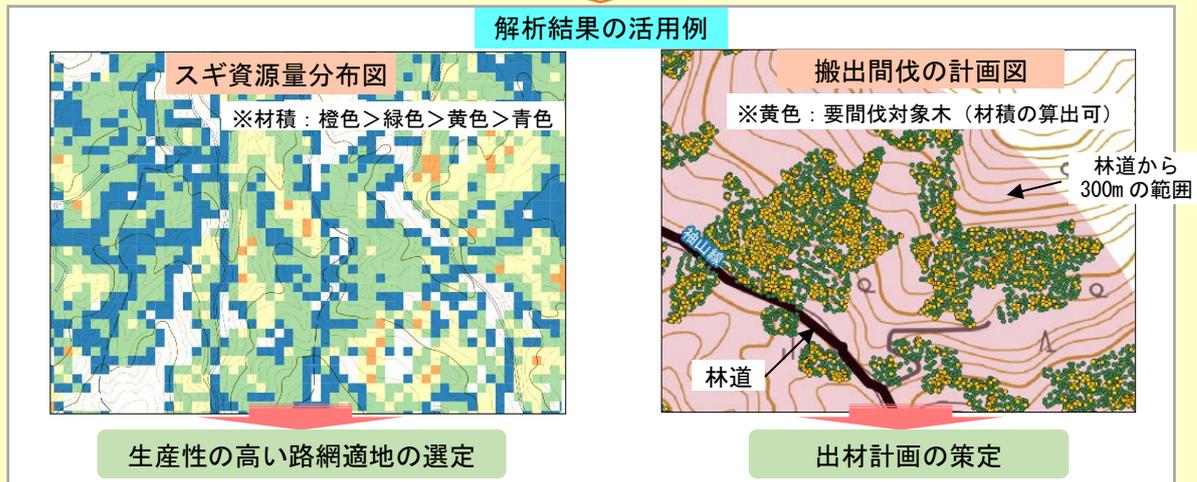
航空レーザ計測は、航空機に搭載したセンサーからレーザ光線を地表に向けて発射し、反射し戻ってくる時間差により立木などの対象物との距離を測定するもので、この計測結果を解析することで、詳細な地形情報や森林資源情報を効率的に取得することが可能となります。

このため、県では、令和4年度までに民有林全域において計測・解析を実施し、森林整備や作業路網の計画策定等に活用するとともに、このデータを、導入を予定している森林クラウドに搭載し、市町村、林業事業者などの方々と共有し、木材の生産から消費までの流通の円滑化を図ることとしています。

航空レーザ計測・解析のイメージ



解析結果の活用例



トピックス 「コンテナ苗植栽の手引き」の作成

富山県では、全国に先駆けて開発した優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の生産と普及を進めており、昨年度は県委託事業等で約4万本の生産を行いました。令和2年度からは民間事業者の生産が加わり、10万本の生産を行うこととしていますが、このうち約7割はコンテナ苗による生産となります。

コンテナ苗は平成20年頃から始まった新しい林業技術で、その生産、植栽について発展途上にあります。今後、このコンテナ苗が主流となります。

何十年にもわたり森林を育てるために、優良な苗木の生産、供給とともに、最初に適切な植栽を行うことは、造林の最も基本的な条件です。

この新しい技術であるコンテナ苗による造林について、従来の普通苗との違いや苗の植え方について、林野庁をはじめ各県で得られた研究成果と富山県森林研究所の研究成果をもとに、本県の気候と地況に適合し、現場での作業に活かしていただくために、「コンテナ苗植栽の手引き」として取りまとめました。

優良無花粉スギ「立山 森の輝き」
コンテナ苗 植栽の手引き



富山県森林政策課
富山県農林水産技術センター森林研究所
令和元年10月

2 林業担い手の確保・育成

【人を育てる】

(1) 林業担い手センター等による担い手の確保

●林業就業者の確保

林業就業に関する一元的な情報発信サイト「とやまの林業就業ナビ」を開設したほか、ハローワークと共同で就業相談会の開催や、首都圏等大都市で開催される林業就業者相談会に参加するなど、新たな担い手の確保に取り組みました。

【実績】

- ・就業相談会（県内） 11回 43人参加
- ・就業相談会（県外） 2回 22人参加
- ・新規就業者 16名（うち県外出身者2名）



高校生や大学生、就業希望者を対象に、体験林業や基本的な林業技術講習を実施しました。

【実績】

- ・体験林業 9回（高等学校7回、大学1回、一般1回）、177人参加
- ・林業就業支援講習 1回 16人参加

●林業就業者の定着

冬期林業の普及により、林業事業体間での労働力の融通を通じて通年雇用を促進するとともに、林業就業者が安心して林業現場で働くことができるよう、将来に向けた人生設計を考えるライフプランセミナーを開催しました。

【実績】

- ・林業就業者の通年雇用者の割合（年間） 72%
- ・ライフプランセミナー 5回 169人参加

林業・木材製造業労働災害防止協会と連携し、安全巡回指導等を実施しました。

【実績】

- ・安全巡回指導 10回
- ・労働災害救助訓練 1回 18人参加

(2) 富山県林業カレッジ等による担い手の育成

●経営・計画に関わる技術者の育成

将来の森林管理ビジョンを描き実現できる人材や、効率的な集約化施業を実現できる人材を育成しました。

【実績】

- ・森づくりプロデューサー養成研修 18日間 12人参加
- ・森林施業プランナー育成研修 5日間 4人参加

●効率的な素材生産等を担う技術者の育成

高い生産性と安全性を確保しつつ、素材生産や森林作業道整備などを行うことのできる現場技術者を育成しました。

【実績】

- ・フォレストワーカー（林業作業士）研修 1年次～3年次 76日間 15人参加
- ・フォレストリーダー（現場管理責任者）研修 15日間 16人参加
- ・このほか、伐木技能高度化研修、路網作設高度技能者育成研修などを開催

富山県林業カレッジの研修〔現地〕
（森づくりプロデューサー養成研修）



3 林業経営基盤の強化

(1) 林業事業体の育成と経営基盤の強化

●森林組合の経営基盤の強化

森林組合関係者で進められている合併構想に対して指導・助言を行ったほか、事業執行体制の強化を図るための指導、検査等を実施しました。

【実績】

- ・常例検査 2組合

(2) 農林水産公社営林の経営改善と適正な管理

●将来収支の改善と森林の適正な維持管理

土地所有者の理解のもと、分収比率の見直し（公社8：土地所有者2）や契約期間の延長（80年）を進めるとともに、森林の有する公益的機能の維持・向上を図るため、間伐等の森林整備や抜き伐りによる広葉樹の導入を促進する「非皆伐長伐期施業」に取り組みました。

【実績】

- ・契約変更 27件（延べ910件 進捗率92.0%）
- ・非皆伐長伐期施業（抜き伐り） 53ha

●伐採収入増大と安定的な県産材の供給

低コスト生産に必要な森林作業道などの路網整備を進めるとともに、利用間伐や抜き伐りによる県産材の供給に取り組みました。

【実績】

- ・森林作業道開設 13.2 km
- ・間伐材生産量 4,138m³

公社営林の状況（富山市八尾町布谷）



(3) 県営林の適正な管理

●適正な管理と計画的な契約更新

公益的機能を十分発揮できる森林を造成するため、間伐等の保育施業を計画的に実施するとともに、契約更新に係る変更契約の締結に取り組みました。

【実績】

- ・間伐 31ha
- ・変更契約 1件（契約者12名）

●計画的な県産材の供給

森林作業道の整備等による効率的な搬出間伐や立木売払を推進しました。

【実績】

- ・間伐材生産量 793m³
- ・主伐売払 2件（15.6ha 9,881m³（立木材積））

県営林の主伐実施状況（魚津市松倉）



(4) 特用林産物の振興

●特用林産物のPR

「森の寺子屋」において、しいたけ植菌体験を実施し、若い世代へのPRに努めました。

【実績】

- ・「森の寺子屋」でのしいたけ植菌体験 14回

4 新たな技術開発と普及指導の推進

(1) 林業の低コスト・省力化のための新たな技術開発の推進

●森林資源の循環利用を推進する技術の開発

ドローン空撮画像から3Dモデルを作成し、立木本数、樹高、材積などを高精度に推定する技術を確立しました。

苗畑でのスギ稚苗の移植作業にタマネギ用移植機を活用することで、従来の人手による移植に比べ、10倍以上効率化できることを明らかにしました。

●県民生活の安全・安心に貢献する森づくりの推進

県内のブナ林、ミズナラ林等において着果状況の調査を行い、作柄を明らかにし、クマ出没予測に活用しました。

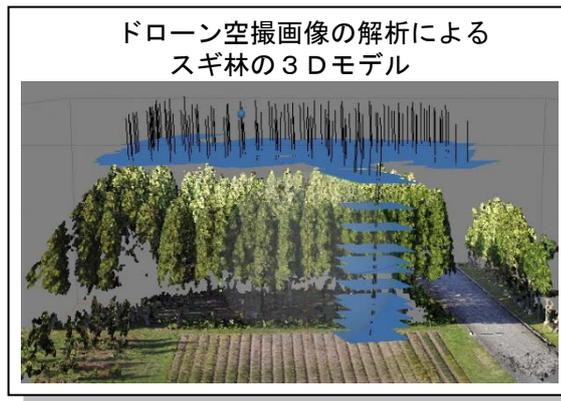
県内のスギ林における花粉の着果状況調査などから、1シーズンあたりのスギ花粉飛散量や飛散開始日、1日の花粉飛散数の予測を行い、広く県民に情報提供しました。

●研究成果の県民への提供

林業関係者はもとより、広く県民に対し、わかりやすく研究情報を発信するとともに、パンフレット等を通じた技術の普及を図りました。

【実績】

- ・森林研究所研究成果発表会 R2.1.21 開催 66人参加
- ・「とやま森林研究所だより」 600部発行
- ・「研究レポートNo.21」 600部発行
- ・「研究報告No.12」 300部発行
- ・「とやまの森と技術No.3」 200部発行
- ・「業務報告」 200部発行
- ・「ドローンによる空撮と画像解析のやり方」 200部発行



とやま森林研究所だより



(2) 持続可能な林業経営に向けた林業普及指導の推進

●面的なまとまりのある持続可能な森林経営の推進

効率的に森林整備を進めていくため、林業事業体に対し、森林経営計画の作成等による集約化施策を指導するとともに、森林・林業に関する専門的かつ高度な知識や技術等を有する森林総合管理士（フォレスター）を育成しました。

【実績】

- ・森林経営計画策定面積（累計） 36,763ha [再掲]
- ・フォレスター新規登録 4名（累計25名）

●森林・林業に関する技術・知識の普及・指導

効率的な主伐を実施するための知識・技術等を普及しました。

【実績】

- ・林業普及指導職員活動成果発表会の開催
R2.2.14 開催 103人参加
- ・地区座談会 19回開催

林業普及指導職員活動成果発表会 [R2.2.14]



木を使う（県産材等の木材の利用促進）

県産材等の木材の利用を促進するため、県産材の安定供給体制の整備や需要の拡大を進めました。

5 安定供給体制の整備

(1) 林業生産性の向上

●生産性の向上を図る路網整備等の推進

路網整備や高性能林業機械の導入を支援しました。

【実績】

- ・ 林業専用道 0.3km [再掲]
- ・ 林業専用道（規格相当） 2.6km [再掲]
- ・ 森林作業道 98.9km [再掲]
- ・ 高性能林業機械の導入 7台
 フェラバンチャ1台 ウインチ付グラブ1台
 グラブ付トラック1台 フォワーダ1台
 グラブソー1台 ログローダ1台 スイングヤーダ1台

高性能林業機械の作業状況
（富山市山田今山田）



(2) 品質・性能の確保と流通の円滑化

●需要に応じた品質・性能の確かな県産材の供給体制の整備

木材加工施設への支援により、品質・性能の確かな県産材製品の供給を促進しました。

【実績】

- ・ 木材加工流通施設整備 3箇所
 （うち木材乾燥機の導入 1箇所）

木材加工施設に導入した丸太選別機
（砺波市庄川町示野）



●川上から川下までの関係者の連携強化

「とやま県産材需給情報センター」により、県産材の供給情報と建設予定物件の県産材使用量などの需要情報の共有化を図るなど、需給マッチングの円滑化を推進しました。

トピックス 「SCM推進フォーラム」に 富山県が選定

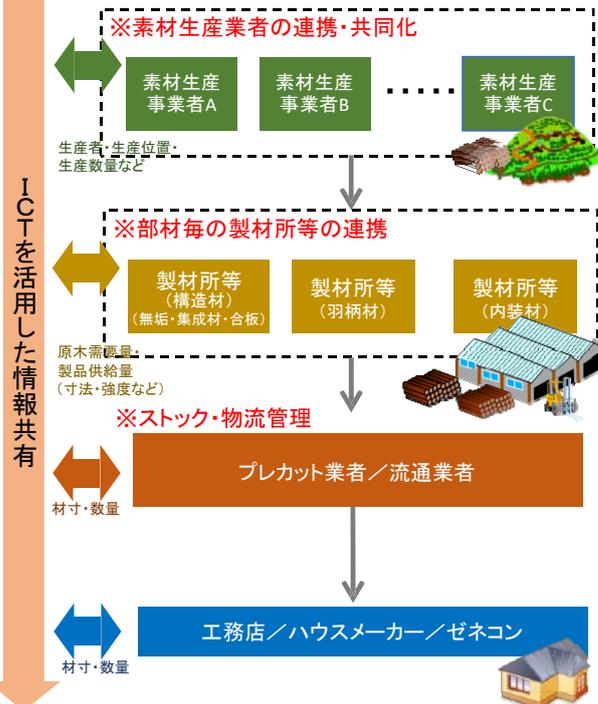
昨年6月、林野庁の「効率的なサプライチェーンの構築支援事業」の対象地域に、富山県（とやま県産材需給情報センター）が全国7地域のうちの1つに選定されました。

この事業は、川上から川下までの各段階をマーケットインの考え方にに基づき結び付け、事業者の連携によるサプライチェーン構築を目指すため「SCM（サプライチェーンマネジメント）推進フォーラム」を設置し、ICTも活用した効率的なマッチングを推進するもので、令和3年度までの3カ年計画となっています。

【期待される効果】

- ・ 川中における水平連携体制の確立
- ・ 北洋材から国産材への転換の促進
- ・ 公共建築物や民間非住宅建築物の木造化、木質化の推進 など

効率的なサプライチェーンの構築 （イメージ）



6 需要の拡大

(1) 住宅や公共建築物等での利用促進

●住宅分野における利用促進

県産材を使った住宅建設に対する支援等を実施しました。

【実績】

- ・とやまの木で家づくり支援事業 56棟認定
- ・とやまの木で家づくり応援工務店 17社
(R2.3末現在)
- ・県産材アドバイザー 88名 (R2.3末現在)

●非住宅分野における利用促進

C L T (直交集成板) などの新たな製品の普及や、県産材を利用する際に必要となる品質や調達方法等を解説した「とやま県産材活用の手引き」の設計者や事業者への普及に取り組みました。

【実績】

- ・C L T 事例検討ワークショップ 2回 43人参加
- ・「とやま県産材活用の手引き」を活用した普及啓発講座 5回 129人参加

●土木工事・工作物等での利用促進

「富山県木造公共建築物等推進会議」を開催 (R1.10.11) し、県産材を使った製品や活用事例等の情報を提供するとともに、備品の導入に対する支援を行いました。

【実績】

- ・県産材ベンチ導入 2施設

(2) 新たな需要を創出するための研究開発

●地域の木材産業と連携した安全・安心な木造建築技術の開発

木材研究所では、企業等との共同研究や依頼試験に積極的に応えたほか、新たに構造用部材の現場型非破壊検査システムとその手引書を作成しました。

【実績】

- ・企業等との共同研究 7社 (6件)
- ・依頼試験 19社 (64件)

(3) 設計者等の育成・確保

【人を育てる】

●中大規模の木造建築物を設計できる人材の育成

民間の建築技術者等に対し、県産材の活用について理解を深めてもらうことを目的に、講習会等を開催しました。

【実績】

- ・木造公共建築講座 2回 102人参加
- ・林産技術講習会 2回 125人参加

支援事業を活用した県産材住宅
(富山市婦中町上轡田)



とやま県産材活用の手引き



公共施設への備品導入
(あいの風とやま鉄道富山駅)



林産技術講習会 [R1.8.2]



●若い世代に木造建築の魅力を伝える機会の創出

県内の建築を学ぶ学生等を対象に、木造住宅の設計コンペを開催し、木造住宅を設計する機会を創出しました。

【実績】

- ・とやま県産材住宅設計コンペ
応募数 23 点 (5 校)

(4) 理解の増進と木育の推進

【人を育てる】

●県民への木材利用の普及啓発

10月の「とやまの木づかい推進月間」を中心に、関係者が連携・協力し、県産材の利用促進に向けたイベントなどの広報活動を実施しました。

【実績】

- ・「2019年とやまチビッ子とんかち大将コンクール」 応募総数 264 点
- ・「とやま木と住まいフェア 2019」 R1.10.19 開催 (木材研究所) 約 800 人参加
企業ブース等での木製品PR、木材強度試験の体験、木工教室の開催等
- ・「ウッディとやま」 R1.10.14 開催 (総曲輪グランドプラザ)
木工クラフトの体験、県産材こどもの城づくり事業の引渡式の開催等
- ・イベントや商業施設での普及活動 2回
(とやま環境フェア、イオンモールとなみ)



児童館など多くの子供が集まる施設への県産材遊具の導入を支援しました。

【実績】

- ・県産材こどもの城づくり事業
(屋外遊具の製作・設置) 4 施設
- ・県産材遊具の導入支援 1 施設
- ・県産材遊具の貸出 44 回

屋外遊具の設置 (富山市立古沢保育所)



県産材を利用した建築物を対象にコンクールを開催し、県産材を利用する設計者・施工者の意欲向上に繋がる機会を創出しました。

【実績】

- ・とやま県産材建築物コンクール
応募数 16 点 (住宅部門 10 点・非住宅部門 6 点)

住宅部門最優秀賞 [富山県知事賞]
「住吉のいえ」(富山市住吉)



《令和2年度に新たに講じる施策》

- ・木育を行う人材を育成するため、基礎知識や実践方法を学ぶセミナーやワークショップを開催します。

森を守る（多様な森づくり・災害に強い森づくり）

とやまの豊かな森を守り育て次世代に引き継ぐため、県民参加の森づくりの推進や災害に強い森づくりを進めました。

7 県民参加の森づくりの推進

(1)-1 里山林の整備

●県民協働による里山林の整備

野生動物との棲み分けなどを目指し、地域住民との協働により、地域や生活に密着した明るい里山の再生に取り組みました。

【実績】

- ・里山林整備 14 市町 56 地区 645ha
地域住民等の参加人数 890 人
- ・4年目以降の地区への支援 11 市町 91 地区 946ha
地域住民等の参加人数 2,569 人

地域住民による森づくり活動
(南砺市北市)



広葉樹林の若返りを図るとともに、キノコ菌床やパルプ材等として活用するため、更新伐を実施しました。

【実績】

- ・広葉樹更新伐 93ha

●地域住民による継続的な里山林の維持管理活動

里山リーダーセミナー等により里山の利活用を促進するとともに、過疎化、高齢化などにより地域住民だけでは困難となった里山林の維持管理を支援する「森づくりサポーター」と地域住民との協働活動「里山応援隊活動」を実施しました。

【実績】

- ・里山リーダーセミナーの開催 6回 96 人参加
- ・里山応援隊活動 6 地区 52 人参加

《令和2年度に新たに講じる施策》

- ・里山林に隣接するやぶ化した荒廃農地を対象区域に追加し、里山林と一体的に維持管理を行うことにより、クマなどの野生動物との棲み分けを図ります。

(1)-2 混交林の整備

●過密人工林や侵入竹林の整備

過密となった人工林や竹が侵入した人工林を、スギと広葉樹が混在する混交林に誘導するための整備を実施しました。

【実績】

- ・過密人工林整理 6 市町 8 地区 33ha
- ・侵入竹林整理 9 市町 10 地区 28ha

侵入竹林の整理（富山市中滝）



(1)-3 保全林の整備

●カシノナガキクイムシ被害跡地の植栽木の育成

カシノナガキクイムシの被害跡地を早急に森林へ復旧するために植栽した、ミズナラ等の実のなる木の保育を実施しました。

【実績】

・下刈り 7市町 21地区 10ha

(2) 森づくりを支える県民意識の醸成

【人を育てる】

●森林環境教育の推進

森づくりへの理解を深めてもらうため、児童、生徒や一般県民を対象にフォレストリーダーによる「森の寺子屋」を開催しました。

【実績】

・「森の寺子屋」の開催 114回 7,132人参加

有峰の自然に対する愛着心を育む活動や高校生の森林体験等を実施する「有峰森林文化村」の活動を推進しました。

【実績】

・文化村活動 43回 2,008人参加
・森林文化公園施設利用者 19,642人

●県民全体で支えるとやまの森づくりの推進

「富山県水と緑の森づくり会議」を開催(H31.4.19)し、森づくりについて幅広く意見を伺うとともに、「富山県森林審議会森づくり部会」を開催(R1.10.10)し、水と緑の森づくり事業の評価を行いました。



(3) 森林ボランティア等による森づくり活動への支援

【人を育てる】

●「とやまの森づくりサポートセンター」による森づくり活動の支援

森づくり活動を行うボランティア団体や企業にサポートセンターに登録してもらい、活動に必要な機器の貸出や保険料の支援、「森づくり塾」による森林・林業の知識、技術に関する研修を実施しました。

【実績】

・サポートセンター登録者数(R2.3末現在) 130団体(5,432人) 54企業
・県民参加による森づくりの年間参加延べ人数 12,333人
・企業の森づくり活動 53回 1,564人参加
・機器の貸出 541回 8,010個
・保険料支援 28団体
・森づくり塾の開催 32回 305人参加

森林ボランティア活動を体験する機会を設けるほか、登録団体・企業の交流を支援しました。

【実績】

・「とやまの森づくりボランティアの集い」の開催
R1.9.21 魚津桃山運動公園 81人参加
・「かぐや姫の里の集い」の開催
R1.10.26 氷見市ふれあいの森ほか 102人参加



●県民意見を反映した「サポートセンター」の運営

「とやまの森づくりサポートセンター運営委員会」を開催(R1.8.27)し、森づくり活動について幅広く意見を伺いました。

8 災害に強い森づくりの推進

(1) 保安林の適正な管理と林地の保全

●計画的な保安林指定と適切な管理

公益的機能の発揮が必要な森林を保安林に指定するとともに、保安林標識の設置や保安林調査員によるパトロールを定期的に行いました。

【実績】

- ・保安林種ごとの指定面積

水源かん養保安林	8.1ha
土砂流出防備保安林	26.6ha
土砂崩壊防備保安林	5.2ha
飛砂防備保安林	1.1ha
潮害防備保安林	2.0ha
計	43.0ha
- ・保安林標識の設置 32基
- ・保安林調査員によるパトロール 8名 86回

豊かな水を育む保安林（富山市有峰）



(2) 県民の生命・財産を守る治山事業の推進

●災害に強い森づくり・水源の森づくりの推進

災害等により機能が低下している森林について、森林の整備を治山施設の設置と併せて実施するとともに、山地災害危険地区の整備や、ダム上流等の重要な水源地域における荒廃地の復旧と併せて、水源涵養機能の高い森林に向け整備しました。

【実績】

- ・復旧治山事業 6市町 11箇所
- ・予防治山事業 2市町 3箇所
- ・緊急予防治山事業 1市 2箇所
- ・地域防災対策総合治山事業 1市 2箇所
- ・山地災害重点地域総合対策事業 3市 5箇所
- ・水源地域整備事業 2市 3箇所
- ・森林整備 26ha

水源地域の荒廃地復旧（南砺市大鋸屋）



また、下流への流木の流出防止のため、流木捕捉機能を備えた治山ダムの整備や、渓流内の流木危険木の除去を行いました。

【実績】

- ・流木捕捉機能を備えた治山ダムの設置 2市 3箇所

流木捕捉機能を備えた治山ダム（南砺市北野蓑谷）



●雪害防止対策の推進

なだれ防止機能を有する森林の維持・造成を行いました。

【実績】

- ・なだれ防止林造成事業 1市 2箇所

●海岸保全対策の推進

飛砂、潮風、強風等の被害から人家、農地等を保全するため、海岸防災林の造成と防災林の機能維持のため、下刈・間伐等の保育作業や植栽を実施しました。

【実績】

- ・ 海岸防災林造成事業 1 町 1 箇所
- ・ 保安林緊急改良事業 3 市 3 箇所

● 治山施設の老朽化対策

治山ダムや山腹工、地すべり防止施設等の治山施設の点検を進め、「富山県治山施設長寿命化計画」を策定しました。



(3) 森林病虫獣害対策の推進

● 森林病虫獣害に対する適切な被害把握と防除の実施

海岸林などを松くい虫被害から守るため、薬剤散布や樹幹注入による予防対策と、被害木の伐倒駆除による被害拡大防止対策を実施しました。

【実績】

- ・ 薬剤散布 5 市町 63 ha
- ・ 伐倒駆除 8 市町 183m³
- ・ 樹幹注入（立木本数）5 市町 271 本

ニホンジカについては、県内 40 箇所のスギ植栽地において、植栽木の採食及び剥皮の被害実態を調査し、県東部及び中部において高い頻度で剥皮被害が発生していることを明らかにしました。

トピックス 令和元年 10 月の台風第 19 号による災害

令和元年 10 月の台風第 19 号の接近・通過に伴い、全国の広い範囲で大雨、暴風となり、各地に甚大な被害が発生しました。県内でも 12 日から 13 日にかけて、各地で最大 24 時間雨量が 100 mm を超え、平野部はもとより山間部においても大きな被害が発生しました。

● 山地災害

富山市八尾町切詰地内で、豪雨により土石流が発生し、下流の林道大谷線へ流出し、通行止めとなりました。県では、国の災害関連緊急治山事業の採択を受け、溪流内に谷止工 2 基を計画・施工し、再度災害の防止に努めています（令和 2 年度完了予定）。



● 林道災害

富山市、砺波市、立山町、朝日町内の林道 7 路線 12 箇所において法面や路肩の崩壊が発生しました（被害額は 112,481 千円）。国の災害査定を受け、同年 12 月より復旧事業を進めています（令和 3 年度完了予定）。



蛭谷線（朝日町）



増山城跡線（砺波市）

IV 富山県森林・林業振興計画の参考指標と令和元年度実績

区分	番号	指標名	単位	基準年	実績	目標	
				H28	R元	中間目標 (R3)	目標 (R8)
森を活かす	1	森林境界画定実施面積（累計）	ha	4,929	6,485	8,900	12,000
	2	主伐面積〔人工林〕（年間）	ha	32	47	80	100
	3	優良無花粉スギ植栽面積（累計）	ha	42	99	200	500
	4	間伐実施面積（累計）	ha	34,784	38,039	40,607	46,607
	5	森林経営計画策定面積（累計）	ha	36,966	36,763	40,200	43,300
	6	路網整備延長〔人工林内〕（累計）	km	1,818	2,130	2,158	2,498
	7	林業就業者数（年間）	人	452	430	450	450
	8	林業就業者*のうち、通年雇用者の割合（年間）*森林組合の伐採作業の従事者	%	64	72	80	100
	9	認定森林施業プランナー数（累計）	人	30	35	36	42
	10	認定事業体数（累計）	者	14	15	16	19
	11	非皆伐長伐期施業面積〔公社〕（累計）	ha	—	65	150	830
	12	県営林素材生産量（年間）	m ³	9,010	8,141	9,090	10,710
木を使う	13	木材の生産性（年間）	m ³ /人日	4.0	4.9 [H30]	4.2	4.4
	14	県産材素材生産量（年間）	千m ³	97	128	130	140
	15	公共建築物等の木造率（年間）	%	14	24	25	25以上
	16	公共建築物等での県産材利用実績（累計）	棟	243	345	530	830
	17	県産材大型遊具の導入施設数（累計）	施設	23	36	43	63
森を守る	18	里山林の整備面積（累計）	ha	2,628	3,359	3,600	4,600
	19	混交林の整備面積（累計）	ha	1,290	1,469	1,550	1,800
	20	森の寺子屋の開催回数（年間）	回	122	114	130	130
	21	県民参加による森づくりの年間参加延べ人数	人	12,439	12,333	13,000	13,000以上
	22	保安林の指定面積（累計）	ha	92,462	92,577	93,200	93,800
	23	山地災害危険地区着手数（累計）	箇所	1,403	1,439	1,428	1,453
	24	流木被害防止対策着手数（累計）	箇所	—	16	20	

V 令和元年度の森林・林業に関する主な出来事

月 日	主 な 出 来 事
平成31年	
4月 1日	富山県森林経営管理総合支援センターの設置〔森林政策課内〕
4月19日	富山県水と緑の森づくり会議
4月20日	県立大学新学生会館竣工式 ※県内初となる県産材によるCLTパネルを構造材に活用
令和元年	
6月 7日	(一社)日本樹木医会富山大会
7月 8日	コカ・コーラ教育・環境財団からの寄附目録受領式
7月10日	富山県県産材利用促進会議
7月29～30日	花とみどりの少年団体験学習〔立山町 国立立山青少年自然の家〕
7月30日	新たな森林管理システムに関する市町村担当課長会議
8月 3日	「有峰で遊ぼう」(開村の日) ※有峰林道無料開放
8月 7日	県政バス(県産材の利用促進ツアー)〔魚津市 星の杜小学校ほか〕
8月 8日	花とみどりの少年団リーダー研修〔富山市 呉羽青少年自然の家〕
8月27日	とやまの森づくりサポートセンター運営委員会
//	第40回中日本入会林野研究会大会
9月 2日	農林水産技術会議
9月 8日	富山県フォレストリーダースキルアップ研修〔南砺市井波ほか〕
9月10日	県政ふれあいトーク〔富山市婦中町〕 ※「チームかぐや姫」の参加
9月21日	とやまの森づくりボランティアの集い〔魚津市 魚津桃山運動公園〕
10月 1日	林業就業に関する一元的な情報発信サイト「とやまの林業就業ナビ」開設
10月 4日	(公社)日本地すべり学会中部支部現地見学会〔南砺市利賀村上百瀬〕
10月10日	富山県森林審議会森づくり部会
10月11日	富山県木造公共建築物等推進会議
10月14日	ウッディとやま〔富山市 総曲輪グランドプラザ〕
10月16～20日	「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会〔富山市ほか〕
10月19日	とやま木と住まいフェア2019〔射水市 木材研究所〕
10月26日	かぐや姫の里の集い〔氷見市 ふれあいの森〕
12月 8日	第23回とやま県産材住宅設計コンペ表彰式
令和2年	
1月25日	富山県フォレストリーダースキルアップ研修〔立山町 林業普及センター〕
2月14日	林業普及指導職員活動成果発表会
2月15日	とやまの森と木とのふれあい体験〔砺波市 イオンモールとなみ〕